

パンタナール通信

南北米福地開発協会 会報 2004年5月1日発行 第8号

病めるアマゾン熱帯林



病めるアマゾンの熱帯林

国連食料農業機関の調査によると一九六〇年から九〇年までの間に約四五〇万平方Kmの熱帯林が消失したと言われています。日本の面積の一二倍以上にもなります。現在でも地球上の熱帯雨林は毎年十七万平方Km（日本の面積の半分）が失われています。その中でアマゾン地域の森林消失の面積は一九九六年までに約五十二万平方Kmに及び日本の面積の一・四倍に相当する面積の森林が滅びました。

その結果、アマゾンの生態系に大きな損傷を残してきました。木が切られ、焼かれると薄い表土が雨水で流され、回復不能な荒地と化してしまいます。密集した樹木が風雨から表土を守り、土壤は微生物により葉や枝、虫などが分解され豊かになり、栄養素の循環がなされ、樹木の成長の元になっています。その鎖が切れる急速に土地が森林再生能力を失ってしまいます。その結果そこに住んできた動植物の種が危機に瀕することになります。研修会でより深く学ぶ事が出来ます。

南北米福地開発協会事務局
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前六-十九-十四

五月底研修会案内
二日研修会 五月二二日～二三日（本部事務局にて）
一日研修会 五月十五日（本部事務局にて）
名古屋一日研修会 五月二三日
九州二日研修会 五月二十九～三〇日
詳細は事務局までお尋ね下さい。

電話 (03) 5774-0544
ファックス (03) 3407-10145
神宮前ハッピービル十階

生態系の宝庫、パンタナールの自然を守ろう！



生態系の宝庫、パンタナールの自然を守ろう

私はここ数年、何度かパンタナールを訪れ、その生態系の豊かさ、自然の美しさに魅せられ、この地球上で原始的で、生物学上で最も豊かな環境を維持している世界最大の淡水の湿地帯を、人間の無慈悲な破壊から保護・保存しなければならないと強く感じました。人間が自らの私利私欲の為に自然を害し、森林を激しく伐採し、母なる大地から木々を剥ぎ取つて来ました。このまま生態系を破壊し続けるならば生態系と自然環境が無言のうちに、人間の傲慢さに對して懲罰を与える日も近いのではないでしようか。私が滞在したパンタナールは、パラグアイ地域で、そこも自然の宝庫であり、十月にはパラグアイ川支流に美しい稚稚なズグロハゲコウ（通称トゥユユ）が飛来し、無数のジャッカレ（ワニ）が輝く太陽の下、甲羅干しをし、また猪やネズミ科最大のカピバラが家族で川岸を訪れてきます。また珍しく貴重で絶滅寸前と言われる手乗り鹿、姿が可愛いアリクイの姿を見ることが出来ます。川には数百種類の魚が棲み、釣りには絶好の場所であり、黄金の魚ドラド、1mを超えるナマズの仲間ピンタードなどが、釣り人の心を喜ばせてくれます。パンタナールは人間の心を解放し、自然と人間との共生を感じさせてくれる、今まで人間の侵食から守られてきた湿地帯です。しかし、この湿地帯にも徐々に自然破壊が始まつており、その対策が叫ばれるようになつてきました。私たち南北米福地開発協会は、パラグアイに申請中（現在既にパラグアイ大統領の承認を得ている）の南北米福地開発財団と協力し、パラグアイ、チヤコ地方レダの地を中心に植林活動を進めており、積極的に自然環境を整える事に努力しております。アマゾンでは熱帯雨林の破壊から生態系が崩壊しつつあり、パンタナールでは同じ過ちを繰り返すことがないように皆様のご協力をお願いします。